

千葉縣上總國夷隅郡大多喜田町
平民吉兵衛弟獵業

齋藤吉

明治十七年三月
四十七年

明治十七年三月十五日千葉縣裁判所ニ於テ右藤吉カ鳥獸獵規則ニ違犯シ及ヒ稼穡ヲ毀損シタル被告事件ヲ審理シ日没後且畑地等ニテ銃獵ヲ爲シタルハ鳥獸獵規則第八條第十一條ニ違犯シタル者ナルヲ以テ同規則第十七條ニ照シ罰金五圓ニ處シ稼穡ヲ毀損シタルハ被告ノ所爲ト認ムヘキ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡セリ原裁判所檢事補今井醇ハ右裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタル要領ハ被告人カ明治十七年一月八日午後六時頃即チ日没後夷隅郡紺屋町ニアル觀音堂境内及ヒ其隣地密藏寺墓地内ニ於テ田中源十郎ノ飼犬ヲ銃殺センカ爲メ發砲シタル事實ハ已ニ原裁判官ノ認定スル所タリ然レハ其所爲鳥獸獵規則第八條第四及同第十一條ニ該當スルニ罪ナルニ原裁判所ニ於テ之ヲ一罪ト爲シ單ニ罰金五圓ヲ科シタリ是レ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手入被告藤吉ハ之ニ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ原裁判官ハ被告カ日没後ニ寺院ノ構内ニ於テ銃獵シタル事實ヲ認メタルモノナレハ原檢察官上告趣旨ノ如ク日没後ニ銃獵シタルト寺院ノ構内ニテ銃獵シタルト二罪ナルヲ明瞭ナリ然レハ明治十四

年第七十二號公布第五條ニ則リ各別ニ處斷スヘキモノナルニ原裁判官ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判ノ一部即チ上告ニ係レル鳥獸獵規則違犯事件ニ對スル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シヲ爲ス左ノ如シ

齋藤吉

原裁判所カ認メタル事實ニ基キ被告ノ所爲ヲ法律ニ照スニ第一寺院ノ構内ニテ銃獵シタルハ鳥獸獵規則第八條左ニ記列シタル場所ニ於テ銃獵ヲ爲スヲ禁ストアル第四ニ作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内トアルニ背キ第二日没後ニ銃獵シタルハ同規則第十一條ニ日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ストアルニ背クヲ以テ右二罪ハ共ニ同規則第十七條ニ第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシトアルニ該當ス仍テ明治十四年第七十二號公布第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアルニ照シ其第一第二ノ所爲ニ對シ各罰金三圓ツ、ヲ科スル者也

○第四千三百三十五號

判文(私ニ危害ノ物品製造所ヲ設)明治十七年四月十五日上告
年十一月廿九日發付

福岡縣筑前國遠賀郡若松村平民
摺附木製造業

添田昌作

明治十七年三月
三十七年
九九三

明治十七年三月二十六日福岡輕罪裁判所小倉支廳ニ於テ右昌作カ官許ヲ得スシテ危害ヲ生
 スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シタル被告事件ヲ審判シ被告ハ明治十六年四月三十日以降官許
 ヲ得スシテ摺附木製造所ヲ創設シタルモノト認定シ刑法第二百五十條ニ依リ貳拾圓以上貳
 百圓以下罰金ノ範圍内ニ於テ罰金貳拾圓ニ處スト言渡セリ被告昌作ハ右ノ裁判ニ服セス上
 告ヲ爲セリ其要旨ハ被告カ製造ノ摺附木ハ「鹽酸カリ」ヲ用ヒタル原檢察官ハ摺附木ナル
 モノハ「ボスボル」ヲ用ヒ之ヲ製スルモノナレハ危害ヲ生スヘキモノナリト陳述セリ裁判官
 ハ輒スシ檢察官ノ陳述ヲ信認シ刑法第二百五十條ニ依リ處斷シタリ是レ理由ノ齟齬ナル裁
 判ナリ抑被告ノ所爲ハ刑罰ヲ受クヘキモノニアラス假令之レヲ刑罰ニ係ルモノトスルモ明
 治十六年福岡縣第二十九號布達ニ依リ違警罪ニ問擬スヘキモノナリト云フニ在リ
 原裁判所檢察補松野貫義ハ原裁判適當ニシテ上告不適當ナルノ趣旨ヲ答辯セリ
 大審院ニ於テ治罪法第二百二十五條ノ公式ヲ踐行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
 上告ノ要旨ハ事實理由ノ齟齬擬律ノ錯誤ト云フニアルモ事實ノ齟齬トハ判決文中ニ明載シ
 タル事實中ニ齟齬アル場合ヲ云フモノニシテ被告カ思量スル所ト判文ニ掲載シタル所ト齟
 齬アル場合ヲ云フニアラス而シテ原裁判所ハ其藥品ヲ「ボスボル」ナルヲ以テ危害アルモノ
 ト認メタルニアラスシテ摺附木ヲ危害品ト認メシモノナルヲ判文ニ徵シテ明白ナリ茲ヲ以
 テ原裁判ハ事實及ヒ法律ノ理由ニ齟齬アラサルノミナラス其認定ニ對シ刑法第二百五十條
 ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニアラサルモノトス然リ而シテ其危害品ト認メタルハ事實裁判
 官ノ聯權内ニ係ルモノニテ此點ニ對シ上告ヲ爲シ得サルモノナレハ本案ハ治罪法第四百十

條ノ項目ニ適當ナル原由之レナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スル
 モノナリ

○第四千三百三十六號

判文(酒造稅則犯) 明治十七年三月廿一日上告
 同 年十一月廿九日發付

新潟縣佐渡國加茂郡吉井本郷平
 民農業

迎 町 彌 五 郎
 明治十七年二月
 滿三十五年
 右代人同郡大和村平民

加 藤 易 三

右彌五郎カ被告事件ニ付明治十七年二月二十六日新潟輕罪裁判所相川支廳ニ於テ被告ハ明
 治十七年一月日不詳會テ管廳ノ免許ヲ受ケタル自家用料ノ濁酒壹石釀造スルニ方リ家屬ノ
 者カ私擅ニ石數ヲ増加シテ壹石壹斗六升貳合ヲ釀造シ而シテ右高ノ内貳升ヲ自用ニ供シ壹
 石壹斗四升貳合現在スル事實アリト認メ酒造稅則附則第三條及第八條第九條ニ照シ罰金三
 圓ニ處シ犯罪ニ係ル濁酒壹斗六升貳合ヲ沒收スト言渡シタリ原裁判所檢察補中山一二ハ其
 裁判ヲ不當ナリトシ上告セシ要領ハ被告カ所爲ハ自家用料ノ濁酒製造方其筋ヘ願出タルモ
 其石數制限外則チ壹石壹斗六升貳合密造シタルモノナレハ其總石數渾テ犯罪ニ係リタルノ
 酒類ナリトス然レハ酒造稅則附則第三條第八條ニ照シテ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品即

ナ其現在ノ濁酒總石數壹石壹斗四升貳合及ヒ諸器械即チ第一號酒造桶壹箇トモ沒收スヘキニ裁判茲ニ出テス單ニ罰金三圓ニ處シ其制限外ニ係ル濁酒壹斗六升ノミチ沒收シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ

對手人被告迎町彌五郎ハ答辯ヲ爲サス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ

案スルニ酒造稅則附則第三條ニ於テ自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造壹石ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシトアリ然レハ本件被告カ制限ニ超ヘ釀造シタル總石數ハ渾テ犯罪ノ酒類タルヲ勿論ニシテ上告論旨ノ如ク同則附則第九條及ヒ第八條ニ照シ其範圍内ノ罰金ニ處シ仍ホ現在シアル濁酒壹石壹斗四升貳合及ヒ犯罪ニ係ル酒造桶壹箇トモ之ヲ沒收スヘキヲ適當ナリトス然ルニ原裁判茲ニ出テス其制限外ニ釀造シタル壹斗六升貳合ノミチ沒收シ且其犯罪ニ係ル釀造桶壹箇ヲモ沒收セサリシハ即チ治罪法第四百十條第十項ニ該當シタル擬律錯誤ノ裁判ナリトス仍テ同法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡シノ内濁酒壹斗六升貳合ヲ沒收シタル點ト其器械即チ釀造桶ヲ沒收セサリシ部分ヲ破毀シ直チニ裁判言渡シヲ爲ス左ノ如シ

迎町 彌五郎

右被告事件ニ付原裁判所カ酒造稅則附則第三條及第八條第九條ニ照シ罰金ニ處シタル上仍ホ其犯罪ニ係リ現在シタル濁酒壹石壹斗四升貳合及ヒ犯罪ニ係ル第一號酒造桶壹箇ヲ沒收スルモノナリ

○第四百三百三十七號

判文(酒造稅則犯) 明治十七年三月廿五日上告
同 年十一月廿九日發付

福島縣磐城國磐前郡平町士族酒造營業人

馬場 武則

明治十七年三月
五十五年十月

右武則カ酒造犯則被告事件ニ付明治十七年三月十日福島縣輕罪裁判所平支廳ニ於テ被告カ所爲ハ酒造稅則第二十條第二項ニ違犯セル者トシ同稅則第三十五條第二項ニ依リ罰金五圓ニ處シ桶四個ヲ沒收スト言渡シタルニ檢事補片岡泰一ハ之ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ不用ノ器械ヲ一時他人ニ貸與ヘタルモノナレハ蓋シ酒造稅則第二十條第一項ニ該當スル犯則者ナリ假リニ原裁判ノ如ク其第二項ニ該當スルモノトセハ第三項ニ從ヒ造石稅ヲ納ムヘキニ止マリ律ニ觸レルモノニアラサレハ原言渡シハ乃チ擬律ノ錯誤ニ係ルモノナリ且貸與ノ事實ヲ揭ケナカラ第二項ヲ適用シタルハ亦事實及ヒ法律ニ依リ理由ノ齟齬セシモノナルヲ以テ旁原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告馬場武則ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

原裁判言渡シニ認メシ事實ニ據ルニ被告ハ管廳ニ届出テス酒桶四個ヲ阿部松吉ナル者ヘ一時貸與ヘタルモノナレハ乃チ酒造稅則改正第二十條第一項ニ違犯セルモノナルヲ以テ同第

三十五條ニ依リ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收スヘキモノトス然ルテ
原裁判ノ此ニ出テサリシハ上告論旨ノ如ク不法コシテ乃チ治罪法第四百十條第十項ニ相當
スル擬律錯誤ノ裁判ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ
裁判言渡シヲ爲スコト左ノ如シ

馬場武則

前ニ判明セシカ如クナルニ因リ被告カ所爲チ酒造稅則改正第二十條第一項ニ違犯セルモ
ノトシ同稅則改正第二十五條ニ第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ云々トアルニ依リ罰金四
圓ニ處シ且ツ酒桶四個ヲ沒收スル者也

○第四百三十三號

判文〔烟草稅則犯〕明治十七年二月十九日上告
同 年十一月廿九日發付

兵庫縣丹波國氷上郡絹山村平民
茶商

白井重平

明治十七年一月
三十三年四月

右白井重平カ被告事件ニ對シ明治十七年一月三十一日篠山治安裁判所ニ開キシ神戸輕罪裁
判所ニ於テ被告ハ他ヨリ貸付金ノ代リニ請取リタル烟草ノ内貳袋ヲ田中文四郎ヘ渡スヘキ
日當金ノ内ヘ都合金貳拾六錢ノ代リニ相渡シタルモ利益ヲ謀リタルニ非ラサルノミナラス

負債ヲ償ヒシ迄ニ止マレハ無鑑札ノ煙草營業ヲ爲セシモノトスルヲ得ス仍テ被告ハ犯則ノ
廉ナキモノト判決シ無罪ノ言渡シヲ爲シタリ對手人警部隱岐一清ハ其裁判ヲ不法ナリトシ
上告シタル要領ハ被告重平カ所有ノ權利ヲ變換シテ營業ニアラサル刻煙草ヲ融通シタルハ
隱然賣買ヲナシテ利益ヲ謀リタルモノナリ然ラハ則チ被告ノ所爲ハ煙草稅則ノ範圍ヲ遁ル
ルヲ得ス之レニ一步ヲ讓リ原裁判官カ審問ヲ盡シ反對ノ心證ニ依リ果シテ法律ニ正條ナキ
モノ或ハ罪ヲ犯スノ意ナキモノトセハ刑法第五條同第二條同第七十七條ノ正條アリ然ルニ
被告ハ獨リ所爲モナク又特ニ法律ヲ脱却シタル者ノ如ク判定ヲ下シタルハ到底審問上曖昧
トシテ事實理由ノ齟齬アルニ依リ擬律ノ錯誤ヲ生シタル甚シキ不法ノ裁判言渡シナリト信
スルコト付治罪法第四百十七條ニ依リ茲ニ上告スト云フニ在リ

被告入白井重平ハ原裁判ハ破毀ノ原由一ツモ之レナク寔ニ適法ノモノナレハ該上告ハ速ニ
棄却アラントテ望ム旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルニ上告官ニ於テ原裁
判ハ事實ノ理由ニ齟齬アリ從ツテ擬律ノ錯誤ヲ生セシモノナリト云フモ其言渡シコ右等ノ
瑕瑾アルコトナシ然レハ該上告ハ徒ラニ事實ノ判定上ニ立入り其當否ヲ論訴シ破毀ヲ求ムル
ニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ適合セサルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ
棄却スルモノナリ

○第四百三十九號

判文〔古物商取締規則犯〕明治十七年十月十五日上告
同 年十一月廿九日發付

愛媛縣讚岐國香川郡新瓦町平民

古道具商

中村要助

明治十七年九月

右要助カ古物商取締規則違犯被告事件ニ付明治十七年九月十八日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告カ明治十七年八月二十一日曾テ刑法第三百九十九條ノ刑ニ處セラレシ森山熊吉ヨリ黒香爐貳個ヲ金拾錢ニテ買受ケタル事實ハ明白ナルモ熊吉ハ愛媛縣同年甲第七號布達第九條ニ依リ各營業人へ通達セル受刑者人名簿ニ脱漏セル而已ナラス被告ハ其當時受刑者タルヲ知テ買受ケシトノ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタリ檢事補山下興作ハ此裁判ヲ不法ナリトシ上告セル要領ハ本年愛媛縣甲第七號布達第九條ハ古物商條例第六條ニ明示スル所ノ盜罪詐欺取財其他受刑者ヲ警察署又ハ分署ヨリ通達シタル時ハ一々寫取リ十年間保存スヘシトアリテ其通達ニ依リ右ノ受刑者タルト否トヲ判別スヘシト規定シタルニアラス然レハ古物商ニ於テ物品ヲ買取ルニハ其賣主ノ受刑者ナル乎否ヲ穿鑿爲サ、ル可ラサルニ被告ハ森山熊吉ノ受刑者タリシヤヲ穿鑿爲サ、リシモノナレハ其故意物品ヲ買取リタルト看做サ、ルヲ得ス因テ被告カ所爲ハ條例第六條ニ照シ處斷スヘキニ原裁判ノ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ヲ言渡シタルハ乃チ擬律ヲ錯誤セシモノナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告中村要助ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之レテ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡シテ案スルニ原裁判官カ被告ニ對シ無罪ヲ言渡シタルハ唯タニ森山熊吉カ受刑者人名簿ニ脱漏セルニ據リタル而已ニアラスシテ亦被告カ其受刑者タルヲ知リシ證據充分ナラサルヲ以テナリ然リ而シテ古物商ハ賣主ニ就キ一々其受刑者ナルヤ否ヲ穿鑿スヘキハ曾テ法律ノ命セサル所ナレハ今被告カ森山熊吉ノ受刑者タリシヤヲ穿鑿セズシテ物品ヲ買取リタルトテ直チニ條例違犯者ト爲シ論スルヲ得ス故ニ原裁判ハ相當ニシテ毫モ不法ノ廉アルヲ見ス之レヲ要スルニ本案上告ハ徒ラニ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ乃チ治罪法第四百十條ニ規定セル各項ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ依リ之レヲ棄却スルモノナリ

○第四百二十四號

判文〔古物商取締規則犯〕明治十七年十月十五日上告

愛媛縣讚岐國香川郡上ノ村平民

古道具商

今川源次

明治十七年九月

明治十七年九月十八日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ右今川源次ハ古物商取締規則違犯被告事件ヲ審理シ其犯罪ノ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡

シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補山下與作ハ上告ヲ爲シタリ其要領タルヤ原裁判所ニ於テ被告ハ古物商取締條例第六條ニ背キ受刑者ヨリ警察官ノ許可ナク物件ヲ買得シタル事實ヲ認メナカラ其受刑者ハ愛媛縣甲第七號布達第九條ニ規定シタル受刑者人名簿ニ脱漏セシモノニ係ルヲ以テ受刑者タルヲ知テ買受ケタリトノ犯罪ノ證據充分ナラストノ理由ノミヲ付シ無罪ヲ言渡シタルハ無罪ノ理由ヲ誤謬シタルモノナリ何トナレハ右愛媛縣布達第九條ニハ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヲ警察署又ハ分署ヨリ通達シタル時ハ一々寫取リ十年間保存ス可シトアリテ之ヲ標準トシテ古物商條例第六條ニ載スル所ノ受刑者タルヤ否ヤヲ判斷ス可シト達シタルモノニアラサルナリ況ヤ通達者ニ於テモ他管ニテ刑ヲ受ケタル者及ヒ滿期後直チニ他管ニ歸國スル者ノ如キハ之ヲ通達スルモノニアラサレハ古物商カ賣者ノ受刑人ナリヤ否ヤヲ判斷スルノ用ニ供ス可キモノニアラサルヲ益明瞭ナルニ於テテヤ依テ原裁判ハ到底擬律錯誤ニ出テタルモノナリト云フニアリ

對手人被告源次ハ答辯書ヲ差出サス

玆ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ
 本案上告ノ論旨トスル所ハ原裁判所ニ於テ愛媛縣布達第九條ニ規定スル所ノ受刑者人名簿ニ脱漏シタル受刑者ニ係ルト云フヲ以テ無罪ノ理由ト爲シタルハ誤謬ナリト云フニアレモ
 原判文ヲ監査スルニ（明治十七年愛媛縣甲第七號布達第九條ニ依リ各營業人ニ通達セル受刑者人名簿ニ脱漏セシ而已ナラス其當時受刑者タルヲ知テ買受ケシトノ證據充分ナラサ

ルヲ以テ云々）トアルヲ以テ之ヲ視レハ原裁判官ニアリテハ唯單ニ受刑者人名簿ニ脱漏シタル一事ノミニ依リタルニアラスシテ其他ニ於テモ犯罪ノ證據充分セサルガ爲メ無罪ヲ言渡シタルヲ判然タル上ハ今ヤ之ヲ論訴スルモ其歸スル所採證及ヒ事實認定ヲ非難スルニ過スシテ治罪法第四百十條各項外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千三百四十一條

判文〔海產物私賣〕明治十七年八月廿六日非常上告
 同 年十一月廿九日發付

函館縣渡島國檜山郡江差仲新町
 二番地平民仲買商

平 林 善 兵 衛
 明治十六年十一月

同縣同國爾志郡突符村平民漁業

高 野 彌 兵 衛
 明治十六年十一月

同縣同國檜山郡泊村四十五番地

平民漁業

佐 藤 多 三 郎
 明治十六年十一月

四十四年 一〇〇三

右善兵衛外二名カ被告事件ニ付明治十六年十一月十四日江差治安裁判所ニ開キタル函館輕罪裁判所ニ於テ被告善兵衛彌兵衛ハ検査未了ノ煎海鼠ナルヲ知リナカラ之レヲ買受ケ多三郎ハ其賣却方ノ依頼ニ應シ之レヲ賣却シタルモノトシ刑法第四百一條ニ依リ善兵衛彌兵衛ハ一月十日ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ多三郎ハ十一日ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判確定ノ後大審院檢事長渡邊驥ハ之レヲ不法ナリトシ非常上告ヲ爲シタリ其要旨ハ工藤平治外五名カ舊開拓使布達ニ背キ検査未済ノ海産物ヲ賣却スルニ當リ之レカ牙保ヲ爲シ又ハ之レヲ買受ケタルモノニ對シ刑法第四百一條ヲ適用セリ抑モ同條中詐欺取財其他ノ犯罪トアリテ範圍漠然タルモノ、如シト雖モ刑法ニ正條アルモノ、贓物ニ關スルモノニシテ本案ノ如ク單行規則ニ適用スヘキモノニアラス然ルニ該條ヲ適用シ處罰セシハ不當ノ裁判ナルヲ以テ之レヲ破毀シ至當ノ判決アラント望ムト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ立會檢事澄川拙三ノ意見ニ因リ之レヲ審案スルニ舊開拓使ニ係ル明治十一年九月二十日付ノ布達ヲ案スルニ漁民取獲ノ海産物納稅ヲ免レンカ爲メ検査ヲ受ケサル前竊ニ賣却シ又ハ賣却セント謀ル者ハ律ニ照シ處斷ノ上該物品ハ悉皆沒收シ又ハ其賣代金逕徵ストアリテ其納稅者ニ於テ之レヲ免レンカ爲メニ賣却シ若クハ之レヲ爲サントスル者ヲ罰スルモノニシテ之レヲ買受ケ若クハ牙保ヲ爲シタル如キモノニ及ハサルハ勿論ナリ然ルチ其賣者ニ懸連スルモノトシテ本案被告ニ對シ刑法第四百一條ヲ適用シ處罰セシハ上告趣旨ノ如ク不法ノ裁判ナリト云ハサル可カラス抑モ該條中犯罪ニ關スル物件トアルハ專ラ刑法ノ犯罪ヲ云フヘキモノナリト解釋セサル可カラス何ントナレハ該條

ハ贓物ニ關スル犯罪中ノ一部分ナル耳ナラス同法第五條第二項ノ規則アルヲ以テ其總則ヲ單行法律ニ適用スルヲ得ヘキモ其賣者ハ單行法律ニ依リ其買者ハ刑法ニ從ヒ處罰スルカ如キ彼此相待テ處罰スルヲ得ヘキ法文アラサレハナリ然ルニ之レヲ罰シタルハ爲ス可カラサル事ヲ爲シタル越權ノ裁判ニシテ即チ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノトス因テ治罪法第四百三十五條ノ法式ニ則リ本院ニ於テ直チニ判決スルヲ左ノ如シ

平林善兵衛
高野彌兵衛
佐藤多三郎

右ノ理由ナルヲ以テ本案ニ對シ原裁判官カ認メタル事實ハ罪トナルヘキモノニアラサルヲ以テ刑法第二條及ヒ治罪法第二百五十八條ニ依リ各無罪ナリトス

74







